

要配慮者利用施設避難確保計画（暫定版）の一例

施設名		特別養護老人ホーム 永福荘、デイサービス 永福					
所在地住所		島田市大草10					
施設管理者		職名	施設長	氏名	〇〇 ××		
災害等の危険度※	地震	最大震度	震度7	震度6強	震度6弱		
		液状化危険度	大	中	小	なし	岩盤（対象外）
	洪水	最大浸水深	3m～5m	1m～3m	0.5m～1m	0.3m～0.5m	0.3m未満
		土砂災害	土砂災害危険区域内	レッドゾーン内	イエローゾーン内		
	土砂災害危険区域外		土砂災害危険箇所内（急傾斜地・土石流・地すべり）			土砂災害危険箇所外	
	火災						
	原子力災害	UPZ内	UPZ外				
その他							
緊急事態対応組織		緊急時に対応できる職員の人数：25人（夜間は、2人常駐）					
		別紙1（略）					
緊急連絡網		時間中（昼間）	別紙2（略）				
		時間外（夜間）	別紙3（略）				
入所者への緊急警報伝達手段※		館内放送 非常ベル・ブザー等 職員の各部屋毎の呼び掛け その他					
施設利用者の状況		利用者数	入所者数	39人、ショートステイ1～2人		最大利用者数	86人
			通所者数・入園者数	4～8人			
		入所者の状況	避難行動時、介添えが必要な入所者・入園者数：86人				
避難確保計画		別添資料のとおり。					

【備考】 表中の※印の欄は、該当する項目を○で囲む（震度・液状化、洪水・土砂災害のハザードマップはホームページ参照）

要配慮者利用施設避難確保計画（暫定版）（1 / 4）

項目 避難 パターン	避難パターンの 適用条件（基準）	避難要領の基本的事項					
		避難場所	移動手段	移動経路	避難のための 人的支援	避難のための 物的準備	その他
A：施設建 物内の安全 な場所への 避難	<p>①施設周辺に危険が迫っている。</p> <p>②危険が切迫しており、避難の緊急度が高い。</p> <p>③施設建物内の特定場所に安全を確保できるスペースがある（2階以上の高い場所等）</p> <p>④避難継続時間は限定されている。</p> <p>⑤施設が所在する地域外への立ち退き避難の必要性はない。</p> <p>【適用事例】 洪水、土砂災害、不審者の乱入等</p>	ホール（食堂、集会場を兼ねる）	車椅子、ストレッチャー、人力搬送	各部屋～廊下～ホール 別紙4 移動経路 図（略）	職員で対応	車椅子、ストレッチャー、応急担架	

要配慮者利用施設避難確保計画（暫定版）（2/4）

項目 避難 パターン	避難パターンの 適用条件（基準）	避難要領の基本的事項					
		避難場所	移動手段	移動経路	避難のための 人的支援	避難のための 物的準備	その他
B：施設 外・隣接す る安全な場 所への避難	<p>①施設内に危険が迫っている。</p> <p>②危険が切迫しており、避難の緊急度が高い。</p> <p>③施設建物外の近傍に安全を確保できるスペースがある。</p> <p>④避難継続時間は限定されている。（最大、数時間）</p> <p>⑤施設が所在する地域外への立ち退き避難の必要性はない。</p> <p>【適用事例】 火災、地震等</p>	屋外広場 玄関広場、 駐車場	車椅子、スト レッチャー、 人力搬送	各部屋～廊 下～非常口 ～屋外広場 別紙5 移動経路 図（略）	職員で対応す る他、地域住 民の支援を得 る。	<p>車椅子、スト レッチャー、 応急担架</p> <p>野外避難のた めの防寒具、 ブルーシー ト、毛布</p> <p>車椅子移動の ための段差解 消器具</p> <p>照明器具・応 急治療具</p>	

要配慮者利用施設避難確保計画（暫定版）（3/4）

項目 避難 パターン	避難パターンの 適用条件（基準）	避難要領の基本的事項					
		避難場所	移動手段	移動経路	避難のための 人的支援	避難のための 物的準備	その他
C：地域内 での安全な 施設等への 避難	<p>①施設内に危険が迫っている。</p> <p>②危険が比較的切迫しており、避難の緊急度が比較的高い。</p> <p>③避難先施設の安全が確保されており、避難スペースも確保できる。</p> <p>④避難継続時間は長期間には及ばない。（数時間から最大数日間）</p> <p>⑤施設が所在する地域外への立ち退き避難の必要性はない。</p> <p>【適用事例】 火災、地震、洪水、土砂災害、限定的な原子力災害</p>	<p>①大津農村環境改善センター「山王」（150m以内）</p> <p>②市立養護老人ホーム ぎんもくせい（150m以内）</p>	<p>①車椅子、ストレッチャー、人力搬送</p> <p>②車両 小型3台 普通2台</p>	<p>各部屋～廊下～非常口（最短出口）～市道～避難場所</p> <p>別紙6 屋外施設 移動経路図 （略）</p>	<p>職員で対応する他、地域住民の支援を得る。</p>	<p>車椅子、ストレッチャー、応急担架 防寒具、ブルーシート、毛布 照明器具・応急治療具 避難用車両 飲料水</p>	<p>通所者は、自宅に引き取ってもらう。</p>

要配慮者利用施設避難確保計画（暫定版）（4/4）

項目 避難 パターン	避難パターンの 適用条件（基準）	避難要領の基本的事項					
		避難場所	移動手段	移動経路	避難のための 人的支援	避難のための 物的準備	その他
D：地域外 への安全な 施設への避難（広域避難）	<p>①施設内に危険が迫っている。</p> <p>②危険が比較的切迫しており、避難の緊急度が比較的高い。</p> <p>③避難先施設の安全が確保されており、避難スペースも確保できる。</p> <p>④避難継続時間はある程度長期間となる。（数日間から1ヶ月以上）</p> <p>⑤施設が所在する地域外への立ち退き避難が必要</p> <p>【適用事例】 地震、大規模洪水・土砂災害、原子力災害</p>	<p>①市の指定避難所・福祉避難所</p> <p>②類似施設（検討中）</p>	<p>①車椅子、ストレッチャー、人力搬送</p> <p>②車両 小型3台 普通2台</p> <p>③支援車両、特殊車両</p>	<p>各部屋～廊下～非常口（最短出口）～指定経路～広域避難場所（検討中）</p> <p>別紙7 広域避難移動経路図（略）</p>	職員で対応する他、地域住民、行政、関係機関の支援を得る。	<p>車椅子、ストレッチャー、応急担架</p> <p>防寒具、ブルーシート、毛布</p> <p>照明器具・応急治療具</p> <p>避難用車両</p> <p>飲料水</p>	通所者は、避難開始前に自宅に引き取ってもらう。